

### 神社敷録第六十八之卷

北海道四

#### ○豊後國

#### 中臣朝臣連胤謹撰

#### 豊後國六座 大一座小五座

豊後は止與久邇乃美知乃之利と訓べし、和名鈔、國名豊後、假字上の如し、但し今は音讀に國府在二大分郡、式廿二、上民部豊後國、上、爲、遠國、同廿四、上計行程上四日、下二日、拾芥抄、國郡豊後、上、○豊後國風土記曰、豊後國者、本與豊前國合爲一國、昔者經向日代宮御宇大足彥天皇、詔、豊國直等之祖寔名手遺治、豊國、往到、豊前國仲津郡中臣村、于、時日晚偏宿、明日味爽、忽有白鳥、從、北飛來、翔、集此村、寔名手即勸、僕者遣看、其鳥、鳥化、爲餅、片時之間、更化、芋草數千許株、花葉冬榮、寔名手見之、爲、異歡喜云、化生之芋、未嘗有見、實至德之感、乾坤之瑞、既而參上朝廷、舉狀奏聞、天皇於茲歡喜之在、即勸、寔名手云、天之瑞物、地之豐草、汝之治國、可謂、豊國、重賜、姓曰、豊國直、因曰、豊國、後分、兩國、以、豊後國、爲、名、

氏人(欠く)

#### 直入郡一座 小

直入は奈保里と訓べし、和名鈔、郡名直入、假字上の如し、式廿二、上民部拾芥抄、國郡直入、○日本紀、景行天皇十二年十月、到、碩田國、中又於、直入郡彌疑野、有、三土蜘蛛、○豊後國風土記曰、昔者郡

東、垂水村有、桑生、之、其高極峻、枝幹直美、俗曰、直生村、後人改曰、直入郡、

#### 建男霜凝日子神社

建男霜凝は多祁衰志毛吳利と訓べし、日子は假字也、○祭神明か也、比咩神、相殿○姫嶽山に在す、社家、彌嶽明神と稱す、今上宮下宮二所に奉祀す、神位

續日本後紀、承和十年九月甲辰、無位建男霜凝并比咩神奉、授、從五位下、三代實錄、元慶七年九月二日乙丑、授、豊後國從五位上建雄霜起神正五位下、

#### 大野郡

大野は於保乃と訓べし、和名鈔、郡名大野、假字上の式廿二、上民部拾芥抄、國郡大野、○日本紀、天智天皇四年八月、遣、達率憶禮福留、達率四比羅夫筑紫國、築、大野及椽二城、續日本紀、文武天皇二年五月甲申、令、太宰府、繕治大野基肆鞠智三城、○豊後國風土記曰、此郡所、部皆原野也、因、斯名曰、大野郡、

#### 西塞多神社 大

西塞多是佐佐牟太と訓べし、○祭神詳ならず○西塞田村に在す、社例祭 國一宮也、一宮

連胤按るに、一宮祀に、大分郡號、大分宮、宮崎同體、又名、柞原八幡、頭注に、名柞原大明神宮崎同體、但し大野郡とすと云り、啓蒙、本紀等皆此説に従へり 抑此社は、大分郡由原

本大野兼永作、此郡所、部皆原野、續日本紀、文武天皇二年五月甲申、令、太宰府、繕治大野基肆鞠智三城、○豊後國風土記曰、此郡所、部皆原野也、因、斯名曰、大野郡、